

[研究発表]

3:25 p.m.～4:10 p.m.

蔦原 亮（九州大学）「se trata de — 聞き手めあてのコピュラ動詞句 —」

[要旨]

本発表では、スペイン語の動詞句 *se trata de* のコピュラとしての用法を、文法化および間主観化の事例として考察する。この句は元々、*tratar de*（～について論じる）の無人称形であり、その意味は「～について論じられる」である。しかし、20 世紀以降、この語彙的な意味での使用は減少し、代わってコピュラ的な機能を担うケースが増加している。この句は単に純然たる連結動詞、*ser* 'be' に似たコピュラとして機能するだけでなく、語用論的な特性も持つことを紹介する。具体的には、この句は単なる「A = B」の関係を表すのではなく、主語（A）に関するより詳細な追加説明（B）を導入する役割を果たす。このことから、この句は聞き手めあての疑似連結動詞であることを主張する。

[主な参考文献]

- ・ Morimoto, Y., & Lucero Pavón, M. V. (2007) *Los verbos pseudo-copulativos del español*. Arco Libros.
- ・ Real Academia Española/Asociación de Academias de la Lengua Española (2009) *La nueva gramática de la lengua española*. Espasa Calpe.
- ・ Traugott, E. C. (2003) From subjectification to intersubjectification. In R. Hickey (Ed.), *Motives for Language Change*, pp. 124–139. Cambridge University Press.

4:15 p.m.～5:00 p.m.

山本 尚子（大阪学院大学）「関連性理論からみた構文が意味するもの — トートロジーの用例を中心に —」

[要旨]

Goldberg (1995)らは、一定の形式と意味の対応物を「構文」ととらえ、さまざまな構文が持つ意味や構文間のつながりを明らかにしてきた。それに対して、関連性理論の枠組みを用いた体系的な構文分析は数少ない。本発表では、まず、Yamamoto (2014)などによる、名詞句トートロジーA is A、「A は A だ」（A には名詞（句）が入る）という表現形式にコード化された手続き的情報に関する規定を確認する。そして、同語反復表現「A ことは A」、「A ものは A」（A には形容詞が入る）の用例を取り上げ、主語と属詞が（ほぼ）同一のコピュラ型トートロジーという観点から、トートロジーという表現形式が持つ意味のつながりについて考察する。

[主な参考文献]

- ・ Carston, Robyn (2016) “The Heterogeneity of Procedural Meaning,” *Lingua* 175-176: 154-166.

・ Goldberg, Abele E. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, Chicago: University of Chicago Press.

・ Yamamoto, Naoko (2014) *A Cognitive Pragmatic Analysis of Nominal Tautologies*, Tokyo: Hituzi Syobo.

5:05 p.m.～5:50 p.m.

盛田 有貴（津田塾大学）「ことばのアイロニーにおける表意の役割」（オンライン発表）

[要旨]

関連性理論 (Sperber and Wilson (1986/1995²)) では、発話により伝達される意味を表意 (explicature) と推意 (implicature) として想定する。表意、推意ともに、話し手が聞き手に伝達することを意図する意味内容として関連性理論では扱われる。ことばのアイロニーでは、例えば、建物に入ろうとした際に前の人にドアを閉められてしまい、Thank you と言った場合、話し手は表意、I (the speaker) thank(s) you(the hearer) を聞き手に伝えたいと思っているわけではない。表意に相当する明示的な意味内容が、話し手が聞き手に伝達することを意図していない場合、どのような説明が与えられるだろうか。また、ことばのアイロニーの産出、理解において表意に相当する意味内容はどのような機能を担っているのだろうか。本発表ではこれらの疑問について説明を試みる。

[主な参考文献]

・ Sperber, Dan and Deirdre Wilson (1986/1995²) *Relevance: Communication and Cognition*. Oxford: Blackwell. (内田聖二・中達俊明・宋南先・田中圭子訳 (1993/1999²) 『関連性理論—伝達と認知』. 研究社) .

・ Wilson, Deirdre and Dan Sperber (1992) On Verbal Irony, *Lingua* 87: 53-76.

・ Wilson, Deirdre and Dan Sperber (2009) Irony and Metarepresentation. *UCL Working Papers in Linguistics* 21: 183-226.